

医の道 50年を回顧

本社からエッセー出版



自書を手に取る石黒さん

=金沢市内の自院

ドクター・ワッシャー 石黒さん

(74)はエッセー「ドクター・ワッシャー」の愛称でコラムを連載していた軽妙な文章は健在で、時にはユーモアいっぱいに、時には大いにまじめに医の世界や胸の内を明かしている。

平成初期に8年間、北國新聞生

氣もしてみてやつと医者らしくなる」を北國新聞社から発刊した。医の道に入つて50年を機に出版した。多感な少年期から始まり医学生の頃、金大附属病院や県立中央病院に勤務した頃、開業医になつた理由などエピソードを満載し

て半生を回顧している。

活面でワッシャーの愛称でコラムを連載していた軽妙な文章は健在で、時にはユーモアいっぱいに、時には大いにまじめに医の世界や胸の内を明かしている。

四六判、275頁で定価1200円(税込み)。県内の書店で販売している。

金沢市の開業医、石黒修三さん

平成初期に8年間、北國新聞生